

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	西唐津中学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>・重点目標の学力向上については、全教員による教科ごとの授業参観や校内研修にて取り組み目標を達成することができた。心の教育については、日々の教育活動の成果が生徒の行動面などでよい結果として現れている。また、「いじめ対応」の研修を行い、教職員の意識の向上を図り、いじめの未然防止に努めることができた。健康・体力づくりでは、不登校に関する定期的な会議を行い、生徒の情報共有・支援を継続的に全職員で対応することができた。</p> <p>・授業力の向上に関しては、校内研究や職員個人のマイプランに基づき、授業改善をすすめているが、まだ納得のいく成果が現れていない。今後もICTの利活用などを含めた指導法の研究が必要である。</p> <p>・いじめの対応について、職員の研修や実践を重ねているが、生徒の肯定的な回答が8割を超えた。また、教育相談の面でも肯定的な回答は8割を超えたが、外部講師の招へいによる研修など今後の更なる取組が必要である。</p>

2 学校教育目標	自他の「いのち」を尊び、自立し貢献できる生徒の育成
----------	---------------------------

3 本年度の重点目標	1 学力の向上 2 生徒指導の充実 3 人権意識の高揚 4 働き方改革の推進
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践	○学力向上対策評価シートに示した成果指標を達成した教師70%以上。	・校内研修で学力向上対策評価シートや各教科の取組を共有するとともに、学力向上に向けた取組の促進を図る。	B	・授業研究会を3回実施するなど職員の研修の場を多く設定して、資質の向上に努めている。今後は、学力対策シートなどを活用して、数値をもとに取組の検証を行う。	B	・学力向上対策シートで立てた目標を達成できたと感じている職員が53%であり、もう少し授業づくり等を工夫する必要がある。来年度に向けて、生徒の学習状況を把握し、より、個に応じた対策をする必要がある。	研究主任
	○基礎学力の向上のための授業づくりの実践 ○補充学習と放課後レベルアップ学習会の実施	○定期テストで基礎的な内容の正答率が80%に達した生徒の割合が70%以上。 ○「意欲をもって補充学習に取組むことができた」生徒の割合が70%以上。	・校内研修を通して、指導方法や評価の在り方について研究実践を行う。 ・電子黒板やタブレット端末などのICTを積極的に活用した授業改善に取組む。	B	・「授業に意欲的に参加する」「授業が分かる」と肯定的に答えた割合がともに8割を超えていて、職員の授業作りの工夫の成果が表れている。今後は、タブレットの活用について推進していきたい。	A	・タブレットPCを授業で積極的に使っていると答えた職員が8割を超えた。学力向上の一つのツールとして、今後も職員のスキルアップが必要である。	研究主任・情報教育推進リーダー
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒75%以上。	・TTによる道徳授業を組むことで、生徒のささやきをひろい、思考を深める。 ・学校行事や地域行事等への積極的な参加を促す。	A	・「道徳が生活に役に立つ」と肯定的に答えた生徒の割合が8割を超え、授業中だけでなく、実生活にもつながる道徳の授業が展開されている。	A	・道徳の時間が楽しいと肯定的に答えた生徒の割合が8割であり、職員が生徒の実態に合わせて、教材を準備し、授業を展開している。	道徳主任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上。	・いじめの防止、対応についての研修を年間2回以上行う。 ・覚知時には対策委員会を立ち上げ、保護者と連携しながら解決に努める。	A	・「いじめ防止の取組に努めている」と肯定的に答えた職員が9割を超え、いじめについては、迅速に、丁寧に対応している。	A	・いじめだけではなく、平和教育や人権・同和教育の視点を忘れずに、授業や学校行事に取り組むことができた。	生徒指導主事
	●生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	○生徒が「先生は自分の良いところを認めてくれる」と肯定的に回答する割合が70%以上。	・生徒の情報共有し、全職員で生徒理解を図る。また、校内研修を中心に、教師だけではなく、生徒同士も認め合うような授業作りを実践する。	B	・「先生は自分のことを認めてくれる」と肯定的に答えた生徒の割合が8割を超え、職員が生徒に寄り添い指導していることが分かる。ただ、夢や目標を持っていない生徒の割合が多く、今後とも具体的な進路指導が必要である。	A	・先生は自分の話を聞いてくれると肯定的に感じている生徒が約9割であり、まずは、生徒の立場を尊重し、指導に当たっている。また、1、2年生は、先輩や社会人の話を聞く機会を設け、将来の目標を持たせている。	特活主任、進路指導主事
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒85%以上。 ○朝食を食べる割合90%以上。	・体験活動等を活用して食への関心を高める。 ・各学級一回は学活の時間に食育指導を行う。	A	・朝食を食べている生徒が87%、そして、食事を大切にしている生徒は95%となった。今後も食育について、全校で推進していく。	A	・生徒会と連携し、給食の食べ残しがないような取り組みを行った。また、学校栄養職員による情報発信により、食育の大切さを家庭に意識づけることができた。	栄養教諭
	○教育相談の推進	○「学校生活が楽しい」と回答した生徒の割合が70%以上。	・気になる生徒の把握をする会議を定期的に行う。また、SCやSSWの活用などを含め小中合同の教育相談部会を定期的に行う。	A	・「学校が楽しい」と肯定的に答えた生徒が85%であった。今後も、子どもたちのことを認めながら、学級、学校経営を行っていく。	A	・生徒をほめたり認めたりしながら指導に当たっていると答えた職員が9割を超えている。年間を通して「ほめるからはじめる、はじまる」を意識して業務にあたることができた。	教育相談
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定。 ・部活動ガイドラインに則った部活動休養日の設定と確実な実施。 ・会議のペーパーレス化など会議や事務の効率化を図る。	B	・定時退勤日や部活動休養日を設定し、時間外勤務の削減に取り組んでいる。昨年度より、平均して1時間程度、時間外勤務の時間が減っている。	B	・昨年度に比べると、時間外勤務の平均時数が約1時間削減できた。しかし、これはあくまでも平均であり、個人をみると、課題もいくつかある。学校全体として、意識の改革や業務の効率的な進め方についてより推進していきたい。	教頭

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	
○キャリア教育の充実	◎キャリア・パスポートによる自己成長のための見直しと振り返りにより、生徒の志を高める教育活動	◎キャリア・プランニングを作成することができ、自分の将来について肯定的な考えを持つことができた」と回答した生徒の割合が70%以上(4段階評価による数値評価)。	・キャリア・プランの作成とキャリア・パスポートの記入による、見直し立てと振り返り活動を行う。 ・キャリア・パスポートと学校生活を繋げることで、自分の長所に気付かせる。	B	・「夢や進路が決まっている」と肯定的に答えた生徒の割合が6割程度であり、低学年程低い状況にある。職業観について、具体的に知り、体験する活動を取り入れたい。	B	・職場体験や職業講話、先輩と語る会など各学年において職業観の醸成や進路選択の機会を設けているが、具体的、明確な将来のビジョンを持たせることはまだ途中である。	進路指導主事
○生徒会活動の活性化	○生徒の主体的な活動の活性化	○規則正しい生活習慣の醸成を行い、あいさつの意識づけや授業遅刻者を0(ゼロ)にする。	・生徒会を中心にあいさつ運動を行う。 ・学校全体で場に応じた行動(服装・言葉遣い等)に努めさせる。	B	・基本的な生活習慣が身につけていない生徒が数名見受けられる。 ・生徒会は自主的に活動し、数年先まで見据えた取組を行っている。	B	・生徒数減少による生徒会活動の再編を行っている。よりよい活動にするための生徒会組織の見直しができている。 ・生活習慣の改善が困難な生徒が見られる。	生徒会担当

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・職員全員が、生徒のことを第一に考えて、学力向上の取組や生徒指導にあたることができた。大きな事件・事故が発生せずに、落ち着いた学校運営を行うことができた。</p> <p>・授業力の向上に関しては、校内研究や職員個人のマイプランに基づき、授業改善をすすめているが、まだ納得のいく成果が現れていない。今後もICTの利活用などを含めた指導法の研究が必要である。</p> <p>・いじめ防止の取組や平和教育など職員は日々研鑽を重ねているが、講師招聘などを行い、最新の指導方法や知識を習得していく必要がある。</p>
----------------	--